

# 群馬県産業の未来を担う新技術

自動車関連への依存度が高い群馬県産業。今後の持続的な発展には、他産業の基盤強化と新産業の創出が欠かせない。こうした中、衰退傾向が続く県内の電気機器産業復活の切り札として、アナログ技術に注目が集まっている。また全国的に関心が高まる環境技術では、ふん尿処理をテーマとした研究開発が活性化している。

## 電気機器産業復活の切り札

### 国の公募型事業にも採択

## アナログ技術

群馬県の電気機器産業は衰退傾向が続く。電気機器関連産業の製造品出荷額は91年をピークに、減少している。こうした状況に歯止めをかける方策として、県内で注目を集めているのがアナログ技術だ。産学官、民間非営利団体(NPO)が力を結集し、技術振興に取り組んでいる。

アナログ技術は、デジタル信号を実際の映像や音に変える技術。次世代の情報通信・映像機器などのシステム開発の核と

なり、デジタル製品の高付加価値化に欠かせない。プリント基板への美装部品同士の程度離すかなど、経験に基づく要素が大きいとされ、人材育成にも時間がかかる。こうした状況に歯止めをかける方策として、県内で注目を集めているのがアナログ技術だ。産学官、民間非営利団体(NPO)が力を結集し、技術振興に取り組んでいる。

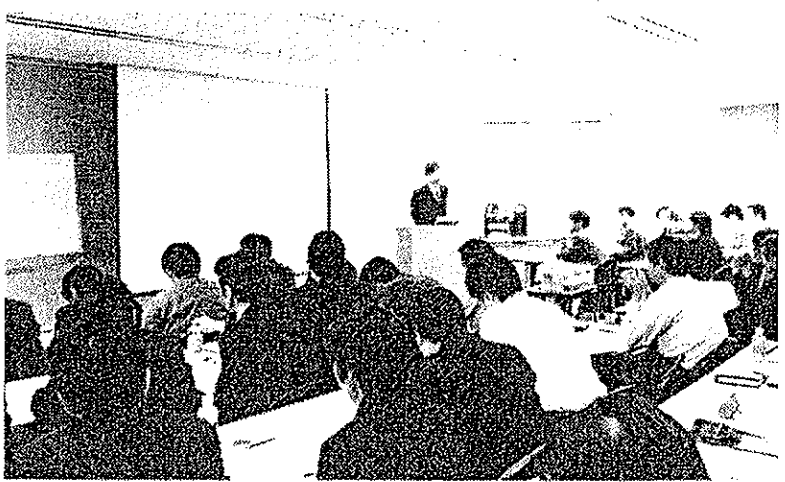
このように注目を集めたのは、電気機器産業復活の切り札として、03年度からアナログ技術振興に乗り出した。旗振り役

る。同協議会は県内アナログ関連企業58社が結集し、振興策を協議している。このメンバー企業に群馬大学などが加わる形で産学官コンソーシアムが誕生。このうち2グループが、国の公募型事業に採択され、研究開発を進めている。

サンデンは群馬大学、KDDI、高崎共同計算センター(高崎市)などと共同で、各種通信方式に対して共通インターフェイスを持つ汎用型無線通信システムの開発に取り組んでいる。経済産業省

の04年度の「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択された。日本サーボは、群馬大学、日立製作所など共同で、ステッピングモーター駆動のロボット用高精度アクチュエーターの開発を7月に始めた。経産省の「地域新規産業創造技術開発事業」の助成を受ける。

また、これとは別に県単独で04年11月に初めて実施した中小企業向けのアナログ技術者向けの「アナログ人材育成講座」も継続する。基礎知識の習得を目指す講座を今年度内に3回開く計画。これを機に、今まで手薄だったアナログ技術振興活動への中小企業の参加を加速したい考えだ。



中小企業向けのアナログ技術者育成事業も積極化する

人材育成では、大手企業のアナログ技術者OBで組織する「NPOアナログ技術ネットワーク」が活躍している。県産業政策課のアドバイスを受け、03年7月に発足してから、企業へのコンサルテーションやアナログ技術者育成をテーマとした講座などを開き実績を積み重ねている。

同ネットワークの活躍が原動力となり、人材育成でも県をあげての大規模プロジェクトが、12月から始動する。通産省の「産学連携製造中核人材育成事業」に採択されたもので、2年間で約1億円の助成を受け、県内企業の中堅設計者を対象とした無料講座を開設。理論と実学に精通した人材育成を目指す内容だ。期間終了後は群馬大学が主導し、人材育成プロジェクトを継続する計画で、関係者の間では今から群馬大学への期待が高まっている。